

2012 年 5 月の東北地方の天候

【 5 月の特徴 】

○月のはじめは東北太平洋側で記録的な大雨となった

○上旬は日照時間がかなり少なかった

○月の前半は気温の変動が大きかった

(1) 2012 年 5 月の概況

この期間、動きの遅い低気圧と高気圧の影響を交互に受け、天気は周期的に変わったが、上旬は曇りや雨の日が続いた時期があった。上旬はじめを中心に暖かい空気におおわれ気温は高くなったが、上旬終わりから中旬はじめにかけて寒気の影響で気温が低くなるなど、月の前半は気温の変動が大きかった。

3 日から 5 日にかけては、低気圧が本州の南岸から東北地方を北上した影響で各県で大雨となり、福島県、宮城県、岩手県で日降水量 200 ミリを超えたところがあった。5 月 3 日は仙台で 130.5 ミリ、福島で 83.0 ミリと 5 月の日降水量の極値を更新した。また、白河では 5 月の月降水量の多い方からの極値を更新した。

月平均気温は平年並。月降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。月間日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。

(2) 各旬の天候経過

上旬：この期間、低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。期間のはじめを中心に暖かい空気におおわれ気温は高くなった。

3 日から 5 日にかけては、低気圧が本州の南岸から東北地方を北上した影響で、各県で大雨となり、福島県、宮城県、岩手県で日降水量 200 ミリを超えたところがあった。6 日は大気の状態が不安定となり、福島県で大雨となったところがあった。また、福島県会津美里町で竜巻が発生した。10 日は低気圧が三陸沖を北東に進んだ影響で、青森県と岩手県で大雨となったところがあった。

平均気温は高い。降水量はかなり多い。日照時間はかなり少ない。

中旬：期間のはじめは高気圧におおわれたが、東北日本海側を中心に寒気の影響を受けた。期間の中頃は低気圧の影響を受け、期間の終わりは高気圧におおわれた。このため、東北日本海側では曇りや雨の日が多く、気温が低くなった。東北太平洋側では晴れの日が多かった。

12 日は気圧の谷の影響で、秋田県で大雨となったところがあった。17 日から 18 日にかけては、低気圧が関東付近を通過した影響で、福島県で大雨となったところがあった。

平均気温は東北日本海側で低く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。日照時間は、東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。

下旬：この期間、高気圧と低気圧が交互に通る、天気は概ね数日の周期で変わったが、東北日本海側では晴れの日が多かった。

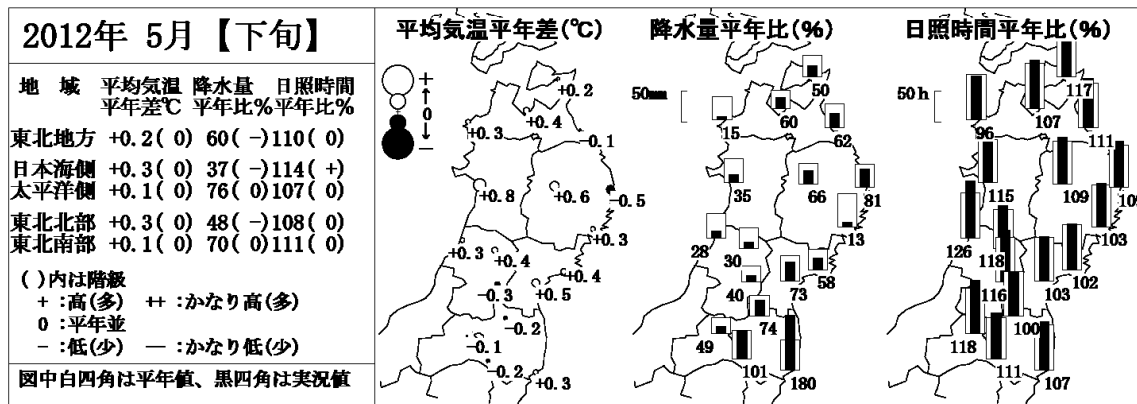
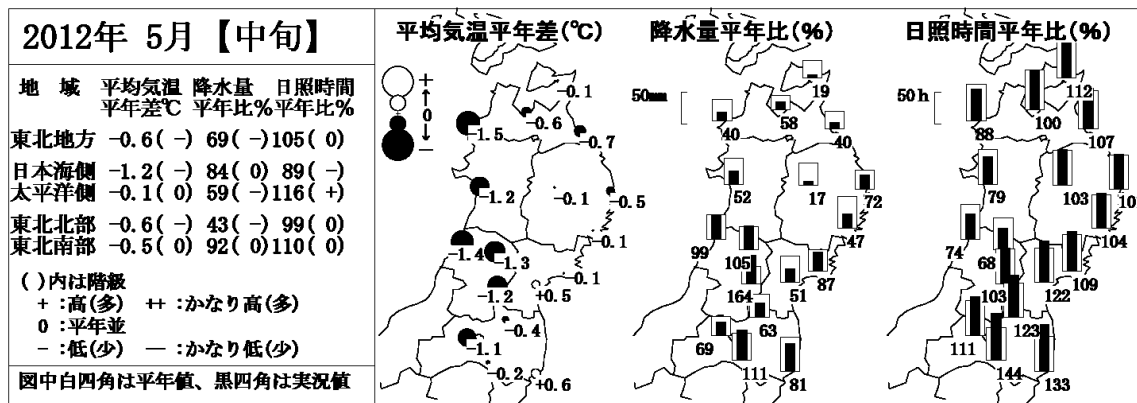
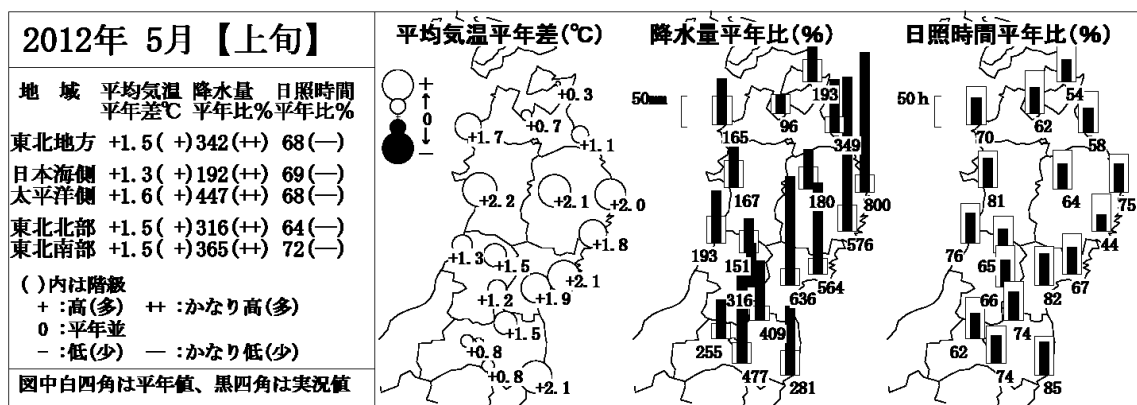
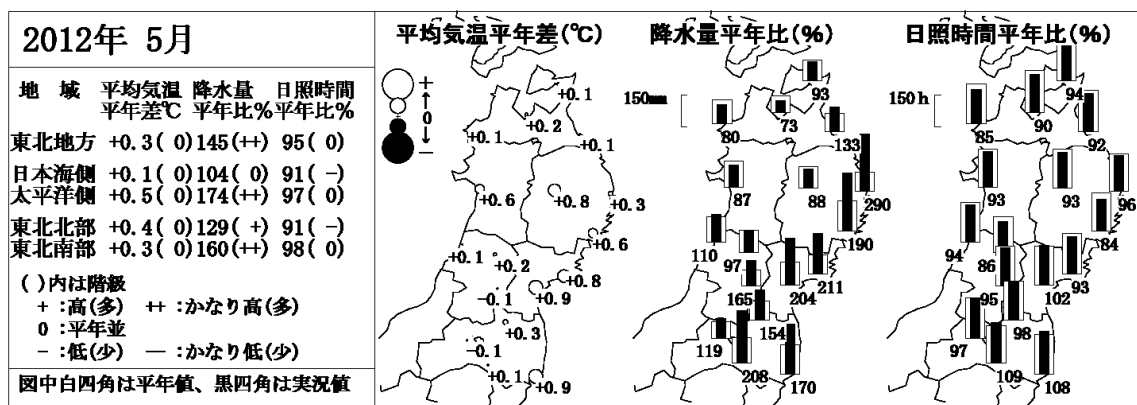
28 日と 29 日は大気の状態が不安定となり、福島県と宮城県で大雨となったところがあった。

平均気温は平年並。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。
細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は 1981～2010 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2012年5月の月・旬平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比



平年値の統計期間は1981～2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2012 年 5 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	13.5	(+0.2)	○	58.5	(73)	○	11	181.0	(90)	—
深 浦	13.3	(+0.1)	○	92.5	(80)	○	9	163.2	(85)	—
む つ	12.2	(+0.1)	○	92.0	(93)	○	12	183.0	(94)	○
八 戸	13.2	(+0.1)	○	118.5	(133)	+	13	181.3	(92)	—
秋 田	15.2	(+0.6)	+	106.5	(87)	○	9	169.6	(93)	○
盛 岡	14.8	(+0.8)	+	90.5	(88)	○	9	171.5	(93)	○
大 船 渡	14.3	(+0.6)	+	276.5	(190)	+*	11	151.6	(84)	—
宮 古	13.3	(+0.3)	○	272.5	(290)	+*	13	173.1	(96)	○
仙 台	15.9	(+0.9)	+	224.0	(204)	+*	13	188.3	(102)	○
石 巻	14.8	(+0.8)	+	194.5	(211)	+*	14	179.0	(93)	○
山 形	15.6	(-0.1)	○	124.5	(165)	+*	8	182.3	(95)	○
新 庄	14.6	(+0.2)	○	102.0	(97)	○	14	146.1	(86)	—
酒 田	15.4	(+0.1)	○	133.0	(110)	+	13	180.5	(94)	○
福 島	16.9	(+0.3)	○	142.5	(154)	+*	10	183.8	(98)	○
若 松	15.6	(-0.1)	○	95.0	(119)	+	9	187.7	(97)	○
白 河	15.1	(+0.1)	○	251.5	(208)	+*	14	192.8	(109)	○
小 名 浜	16.1	(+0.9)	+	241.0	(170)	+*	12	203.7	(108)	+

(注) 1. 平年値は 1981～2010 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1981～2010 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合には

かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

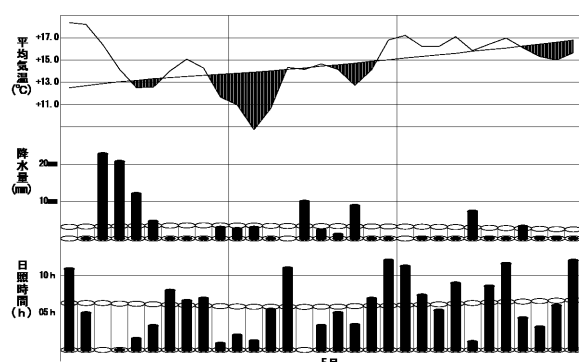
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

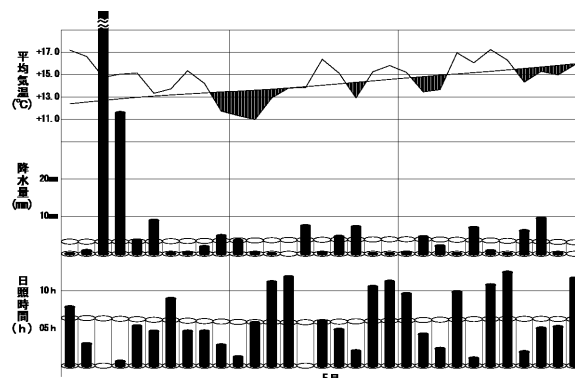
3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

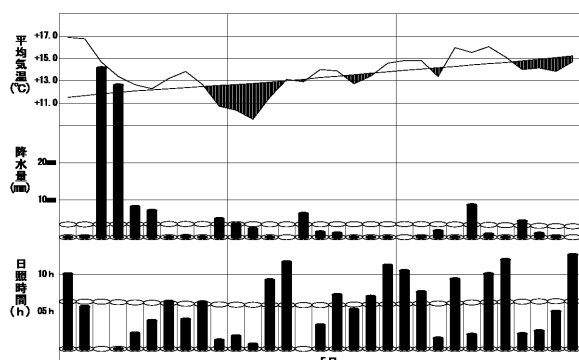
(5) 2012 年 5 月の日別経過図



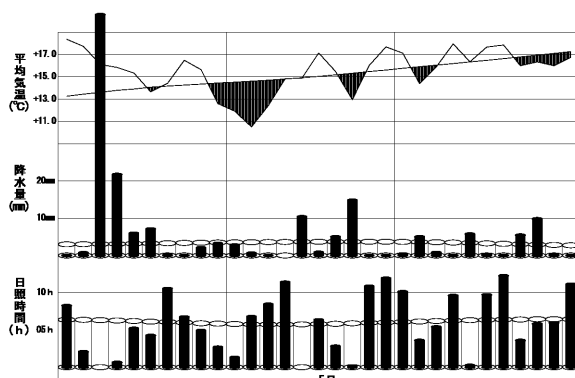
東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図



東北部の日別経過図



東南部の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2012 年 5 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新
3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新
3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	白河	251.5	208	236.2 (1965)	1940	121.2
3	仙台	224.0	204	264.9 (1955)	1927	109.9

月降水量少ない方からの順位更新
3 位以内はなし

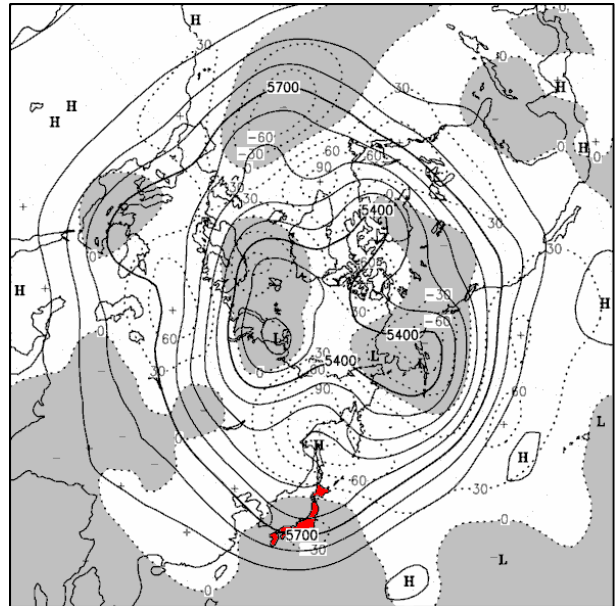
月間日照時間多い方からの順位更新
3 位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新
3位以内はなし

（7）2012 年 5 月の循環場の特徴

500hPa 高度は、偏西風の蛇行が見られ、日本付近は負偏差となる一方、オホーツク海付近は顕著な正偏差となった。

東北地方は、動きの遅い低気圧と高気圧の影響を交互に受け、天気は周期的に変わった。



2012 年 5 月の平均 500hPa 高度

実線は高度(m)、間隔 60m。点線は偏差(m)、間隔 30m。
陰影部は負偏差（寒気に対応）。